



NEWS ECO



シブヤパレン工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>



駐車場のアジサイの植え込みの下で、こんな「葉っぱ」を見つけました。この「葉っぱ」なんの葉っぱかわかります？

この「葉っぱ」を見て、すぐわかる人はかなりのチョウ(蝶)好きか、アウトドア派の植物好き。この「葉っぱ」じつは「春の女神」と言われる「ギフチョウ」の食草で「カンアオイ」。

主に山地や里山の林などでみられることから、自然に生えてきたとは考えにくいので誰かが植えたものと思われます。「カンアオイ」は野生のほか、葉や花に変化がみられることから園芸品種も多くあり、愛好家も多数いるようです。

誰が植えたのかは不明ですが生息環境が適していたのでしょ、街中でひっそりと何十年間も生き続けていたようです。

忙しい毎日かとは思いますが、ちょっと目を凝らしてみると興味をそそられる植物・動物を構内で観察することができます。

限られた環境で生息し続けている生物を見ているとこの環境をいつまでも守っておきたいと思うのは私だけではないと思います。

ISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISO ISOISOISO ISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISO

《ISO外部審査》

今回は初めて、QMS・EMSの審査を同時に行う統合プログラム審査で9月30日～10月2日の3日間行われました。

監査報告書の「審査所見」の中から【グッドポイント】3件、【改善の機会】9件の抜粋・要約を紹介します。

【グッドポイント】は継続とさらなる発展に、【改善の機会】は早急な改善と対応に努めましょう。

ISOISOISOIS 【グッドポイント】 ISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISO

1. “経営計画書” → “部門／部署活動” → “個人カード”の一連の流れや、苦情対応記録である「改善事由報告書」が是正処置の手順に基づいた記録になっていること、月1回発行の“社内報”や“News ECO”が内部／外部コミュニケーションの手段となって課題・問題解決の役割にもなっていることが見受けられます。これらは、違和感なくISOシステムの中に取り込まれ、業務と一体化しており、規格改定の要素を先取りしたようなシステム構築が行われていると思われました。(管理責任者 Q/E 共通)
2. 営業企画部で行っている現場視察(目的:設計積算時と施工時の相違を今後の積算時に反映)は、積算等を行う女性社員や他部署のホームページや会社案内を作成する女性社員も参加され、それぞれの知識や経験が増すばかりでなく、第3者的な視点で現場を見てコミュニケーションを図ることにより、部門間の相互理解が進み現場の方へも良い影響を与えていました。(営業企画部、岐阜支店 Q/E 共通)
3. 営業企画部で行っている「第〇〇回定例業務会」(目的:納品業者の生の声を聞く)において、それぞれの業者からの要望や意見が吸い上げられるばかりでなく、予定物件を公表することにより業者の方でも早めに準備等が行え、お互いに良い仕組みとして機能していました。同様のことが、岐阜支店においても行われていました。(営業企画部、岐阜支店 Q/E 共通)

ISOISOISOIS 【改善の機会】 ISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISOISO

- ＜マネジメントレビュー＞
1. マネジメントレビューはQMS/EMSは同日、同じ時間帯で実施しているため、その結果記録も1枚にまとめることが可能と思われま
す。(改善のプロセス 管理責任者 Q5.6/4.2.4/E4.6/4.5.4)
- ＜目的、目標＞
2. 総務部、財務部の目的・目標年間改善活動計画書に計画を立案しての活動の中で、社員の新規採用等の課題に対しては、継続的改善として活動が、必ずしも論理的に捉えられた状況ではありませんでした。有効性の継続的改善を含めて、判り易く記録することに改善の余地が見られました。(目標展開プロセス 総務部、財務部 Q5.4.1/8.5.1)
 3. 年間改善活動計画書を使っでの活動を確認しました。しかしながら、具体的な活動項目記述欄は「積極的な入札参加」或いは「完全実施を目指す」といったスローガンの表現が見受けられました。有効性の観点から、より具体的な計画とする事に工夫の余地が見られました。(営業プロセス 静岡支店 Q5.4.1/E4.3.3)
- ＜運用管理＞
4. 当該作業所では、「施工品質計画書」の“顧客所有物の管理”のページは、該当するものがないということで斜線が引かれています。学校から借りている、工事エリアのカギについては、“顧客所有物”としての管理が必要と思われま
す。(施工プロセス 技術部・小学校冷房工事 Q7.5.4)
- ＜データ分析＞
5. 「現場活動状況検証記録」には必ず数件の指摘が挙げられています。その指摘事項の特性や傾向を知るためにデータ分析を行うことをお勧めします。(施工プロセス 技術部 Q8.4)
- ＜環境側面＞
6. メンテナンス業務等においては、「環境側面抽出及び著しい側面の判定表」への反映は見受けられませんでした。及ぼせる環境側面として関連する事を特定し、当該マネジメントシステムの中での活動とする事に改善の余地が見られました。(営業プロセス 静岡支店 E4.3.1/4.3.3)
 7. 営業企画部での環境側面の抽出は、「直接(管理できる環境側面)」のみでした。「直接」「間接」は表裏一体ですが、「間接」は、自分たちの業務うち、相手に決定権があるものなので、それを抽出する仕組みについて一考する余地があります。(営業企画部 E4.3.1)
- ＜その他＞
8. 環境マニュアルでは「当社は、著しい環境側面について外部コミュニケーションを実施しない。ただし当社の業務内容に著しい変化が生じた場合には、改めてその手段を構築する。」となっているが、業務内容が変化しなくても著しい環境側面は変化する可能性があり、特に営業活動で、相手に決定権がある場合、どの様に情報発信を行えば相手に響くかが重要となってきます。営業企画で作成している「営業目標計画書(〇月度)」で統括部長がそれぞれに細かく指示を出されていることを考慮した場合、「外部コミュニケーションは実施しない。」のままで良いかどうかについて、一考する余地があります。(岐阜支店・営業企画部 E4.4.3)
 9. プロジェクト「いぶき苑本館改修工事」において、環境目標は「ダンボールの分別回収」となっているが、分別回収のエビデンス(記録や証拠)がありません。環境目標の実施がどのように仕事の上で役立つか、それらを実証するためのエビデンスをどのように取るか、について一考する余地があります。(岐阜支店・いぶき苑本館改修工事 E4.4.6/4.5.1)